



CAMPUS

Vol.
144

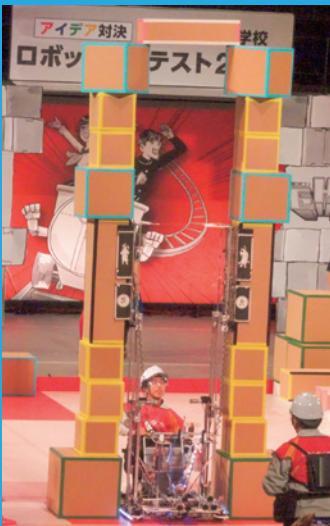
2025 AUTUMN 奈良工業高等専門学校

令和7年11月発行

〒639-1080 奈良県大和郡市矢田町22
奈良工業高等専門学校 広報センター
TEL. 0743-55-6034 (CAMPUS担当)
ホームページ <https://www.nara-k.ac.jp>
メールアドレス gakusei@jimu.nara-k.ac.jp

速報!

ロボコン2025全国大会
Aチームベスト8&技術賞!



第59回高専祭



速報! 第62回近畿地区高専ラグビー大会 優勝!



contents

巻頭言	02	日経STEAMシンポジウム2025	09
新入生の声	03	KOSEN水素フォーラム	
奈良高専での生活	04	後援会からのご寄贈(防災備蓄倉庫等)	
学生会新役員紹介・活動方針	05	学生支援センターから	
クラブ・同好会紹介(アーチェリー部・生協学生同好会)		Library News	10
学生の活躍 全国大会出場報告など	06	アントレプレナーシップ教育プログラム	11
グローバル教育センターから	08	起業家工房活用案内	

information

- ☆ロボコン2025 近畿地区大会
- ☆学生課窓口のご案内
- ☆キャンパスメンバーズ制度



奈良高専公式
HP



奈良高専公式
X



奈良高専公式
Instagram



松村 寿枝

専攻科長

2025年もノーベル賞の受賞者が発表されました。その中で、日本人研究者の坂口志文氏(生理学・医学賞)と北川進氏(化学賞)が選ばれました。日本人の受賞は、私たちにとって大きな誇りであり、心から喜ばしいニュースです。とはいえ、「ノーベル賞」と聞くと、どこか遠い世界の話のように感じる人もいるかもしれません。でも、少し視点を変えて「研究」という観点から見てみましょう。

研究の道は、決して平坦ではありません。ノーベル賞の発表にあわせて、受賞者の取り組みや成果に至るまでの長い過程が紹介されることがあります。多くの受賞者にとって、成果がすぐに認められるとは限らず、地道な努力を何年、何十年と続けてきた方も少なくありません。それでも、真摯に探究を続けた研究が、やがて世界に認められる——その歩みこそが、ノーベル賞の本質なのです。一方で、クロード・シャノンのように、若いころから成果を出しつづけ、後に「情報理論の父」として現代の通信技術の礎を築いた研究者もいます。若いうちに自分の興味を見つけ、それが成果につながることは理想的です。しかし、多くの研究者にとっては、長く地道な努力が実を結ぶことであれば、残念ながら成果に結びつかないこともあります。途中であきらめいたら、認められる成果にはならなかつかもしれません。それでも、私は、その探究が無駄だったとは思いません。

本当に自分にとって意味のあるテーマを見つけ、誠実に探究を続けることは、研究者として、また技術者として非常に価値ある選択です。皆さんが今興味を持っていることは、未来にどんな形で実を結ぶでしょうか。今は、未来のために知識を身につけている途中かもしれません。学生の皆さんには、柔軟な発想力と旺盛な好奇心を持っています。その力を活かして、自分が心から興味持てるテーマを見つけてください。成果がすぐに見えなくても、誠実な努力を積み重ねていくことが、必ず未来につながります。

「何をしていいかわからない」、「何も思いつかない」、「そこまでのことができると思っていない」と思う人もいるかもしれません。そもそも、ノーベル賞を受賞した研究者がすべて、ノーベル賞を取るつもりで研究していたわけではないのです。必死に取り組んでいた結果が受賞に結び付いたのです。私は、評価や結果はあとからついてくるものだと思っています。評価を気にしていては何もできません。まずは、研究でなくても構いません。興味を持ったことから何か始めてみる。調べてみる。そんな一歩から始めてみてはどうでしょうか。

皆さんには、インターネットで情報を調べる環境があり、図書館で書籍や文献に触れることができ、相談できる先生や一緒に学ぶ仲間がいます。このような環境で勉強や研究ができるのは、今だけかもしれません。過ぎ去った大人たちから見れば、本当に羨ましいほどの学びの場です。

まずは、はじめてみましょう。あなたの研究が、いつか世界を変える力になるかもしれません。

本科の勉学、卒業研究、そして特別研究は、皆さんの研究の最初の一歩です。それは、これから的研究だけでなく、日々の学びへとつながっていきます。人生100年時代といわれる今、皆さんの研究と学びの時間は、これからいくらでも広がっていきます。今この瞬間の積み重ねが、未来の可能性を広げていくのです。





新入生の声

新入生の皆さんに高専生活の感想を聞いてみました。

●陸上部について

機械工学科1年 古川 竜 雅

こんにちは。陸上部は週に5回練習があり、走り込みや投擲、練習後には体の回復に役立つようにストレッチ等をしています。主に放課後の活動時間に、これらの練習に取り組んでいます。そして、入部して2か月後に行われた第62回近畿地区高等専門学校体育大会では、800mに出場しました。中学校からの陸上の経験を活かして高専に入学後初の大会に挑みましたが、残念ながら悔しい結果となりました。しかし、今後どこを改善すべきかを考え、練習に取り組んでいきたいと思います。

最後に、私は体力をつけるために長い距離を走っていますが、他の部員達は基礎から応用まで自分に足りないところを補えるように活動をする等、陸上部では幅広い活動が行われています。

●はじまりの場所、奈良高専

電気工学科1年 長屋 陽 茉 梨

入学してからの授業は、想像していたよりもずっと専門的でびっくりしました。中学校では習わなかった内容が多く、最初は授業についていくのに必死でしたが、先生が実際の現象や身近な話に結びつけて分かりやすく説明してくれるので、だんだん面白くなってきました。電気の仕組みや回路の考え方を学ぶにつれて、身の回りにあるものの見え方が少し変わってきた気がします。また、クラスメイトはみんな真面目で、授業中はしっかり授業に集中できる雰囲気がある一方で、休み時間にはお互いに気軽に話ができるので、毎日が楽しいです。

これから実験や実習で、自分で手を動かして確かめることで、もっと深く理解できるようになるのが楽しみです。

●入学式の宣誓者を務めて

電子制御工学科1年 稲石 妃 奈 乃

入学式で宣誓者を務めたことは、私にとって忘れられない経験になりました。多くの新入生や保護者、先生方の前で宣誓することにとても緊張しましたが、それと同時にこれから新しい生活が始まるという期待と高揚感を抱きました。

あの壇上からの景色と、その場の雰囲気は高専生になった大きな節目として強く印象に残っています。

入学してから、はやくも約半年がたちました。授業や新しい友人との関わりを通して、日々成長を実感しています。新しい環境で、新しい友人との関わりは新鮮で、毎日楽しい日々を過ごしています。

これからも宣誓したときに感じた気持ちを忘れず、5年間という時間を大切に過ごしたいです。高専でしか学べないことや学校行事などにも積極的に参加し、全力で取り組めたら良いなと思います。これから奈良高専で技術や知識をしっかりと身につけ、将来の目標に向かって努力したいと思います。

●想像を超える世界

情報工学科1年 森下 小春

私は、吹奏楽部に所属しています。吹奏楽部には、個性豊かな先輩・そして同級生がいます。私は高専に入って初めて吹奏楽を始めました。右も左もわからない私に、先輩方は優しく教えてください、また、たくさんの場面で助けてくださいました。吹奏楽部に入らなかったら見られなかったであろう様々な景色を見られて、まだまだ入部したばかりですが、とても楽しく、毎回部活の時間を過ごしています。まだまだ初心者中の初心者ですが、たくさん練習をして、少しでも先輩に追いつけるように頑張っていきたいと思います。

●はじめの一歩

物質化学工学科1年 南 瑞 昇

入学して本格的な専門科目の学習が始まり、私にとって不安の多い前期がスタートしました。考えることが多く、常に気を張っているような感覚で、心を休める余裕もありませんでした。日々初めてのことばかりで、何をどうすればよいのか分からず、気持ちが追い詰められていました。しかし、友達の支えもあって少しずつ授業の流れをつかめるようになり、次第に学ぶことが楽しく感じられるようになりました。

初めはつらいこともあるかもしれません、やってみなければ楽しさは分かりません。不安な一歩かもしれません、勇気を出して踏み出してみてください。きっと二歩目は、今よりもずっと軽やかに進めるはずです。





●奈良高専だからこそ

情報工学科2年 田中 彩央里

普通校では体験できないことが日常にあふれている—それが、私が毎日学校に通う理由です。

専門科目を学んだり、レポートを書いたりと苦労することもありますが、「この学校だからこそできること」が楽しいです。部活も同じく、高専だからこそ普通校よりも長く先輩方と関わることができ幸せです。学生主体で大変なことも多いですが、いつも明るく元気をくれる先輩方、どんなときも全力で楽しむ同期、何事にも一生懸命の後輩たちと過ごす時間はかけがえのない宝物です。笑い合い、ふざけ合い、そして真剣に、毎日取り組んでいます。

これからも奈良高専でしかできない経験を大切に、成長していきたいです。



●クラスの様子

機械工学科3年 山本 玲寧

今のクラスは私にとって大切な存在です。入学以来、同じ仲間と学び、遊び、成長できたことを嬉しく思います。

3年間学級委員長を務め、クラスの方針に関わる役割を担えたことは誇りです。互いに気軽に相談し合える雰囲気もできましたが、クラス全体の成長という点では課題もあります。たとえば、1年生の頃から続くゴミの分別の問題は、いまだに解決していません。今後は、分別が負担にならない工夫を考えたいと思います。



これまで築いてきた信頼関係を大切に、これからも互いを思いやりながら学生生活を過ごしていきたいです。

●インターンシップに参加して

物質化学工学科4年 藤井 理莉

夏季休業期間中に、食品メーカーでの5日間のインターンシップに参加しました。

インターンシップでは、実際に働いている方々の姿を拝見させていただき、また、働くことに対する姿勢や普段の生活が学生時代とどのように変化するのかなどを学び、とても貴重な経験となりました。また、10月中旬にインターンシップ報告会が行われ、クラスの人たちと3年生を交えてインターンシップで得たことを共有しました。

4年生になり、今まで以上に将来の進路について考える機会が多くなりました。あと数か月後には進路を本格的に決めることがあります。その時に、より多くの選択肢を残すために、専門的な知識の勉強はもちろん資格取得やインターンシップのような新たな経験を積んでいきたいと思います。



●学生生活について

電子制御工学科5年 西川 遙哉

皆さん、高専生活をいかがお過ごしでしょうか? 新学期にクラスの人数が増えたり減ったりするのも高専ならではですよね。

高専の学生生活は専門的な授業や実習が多く大変ですが、とても充実しています。実験やものづくりを通して、教科書だけじゃ学べないことを体感できます。日々の課題やレポートを友達や先輩と協力して終わらせたりした経験、部活動や文化祭での出し物の経験は進学・就職に必ず役立ちます。日々の休息も忘れないようにしてください。

実は毎日少しづつ高専の先生方に皆さんは知らず知らずのうちに鍛えられています。自分がこれまで頑張ったことをもとに就職や進学に向けて頑張ってください。



●最高の仲間ができた高専生活

専攻科 システム創成工学専攻

電気電子システムコース2年 一ノ宮 遼

専攻科に入学し、いくつもの学会、企業展示会、研究室メンバーとの旅、また朝までお酒を交わしながらの話を楽しみ、気がついたら高専も残り数ヶ月となりました。

5年生のときは先輩の助けを借りながらようやく研究できていた私ですが、情報の集め方や人への頼り方を学び、自ら研究を進めていける自信がついた気がします。また、同じ分野で活躍する研究室のOB、OGに導かれ、企業や他大学へのネットワークを広げることもできました。

まだまだ未熟な私ですが、先輩、後輩、先生など最高の仲間に支えられながら、研究の世界でも人としても挑戦を続けていきたいです。





学生会新役員紹介・活動方針

学生会会长：橋本 恵宗(電子制御工学科3年)

このたび、学生会会长として二期目を務めさせていただくことになりました。学生会は、学校をより良くするために学生の声を形にしていく組織です。小さな気づきや意見からでも、学校はきっと変えられます。

一人ひとりの思いを大切に、みんなで楽しい学校生活をつくっていきます。

学生会副会長：小西 清二(電子制御工学科3年)

この度、学生会副会長を務める事となりました、小西清二です。定例業務やスポーツ大会を始めとした年中行事の運営に責任を持って取り組み、執行部や学生の皆様を支えられるよう全力で努めてまいります。

学生会副会長：尾閑 葵(情報工学科2年)

学生会副会長に就任しました、尾閑葵です。分からぬことだらけですが、副会長としての責任感を持ち、全力で取り組んでいきたいと思います。よろしくお願い致します。

学生会会計：田中 彩央里(情報工学科2年)

学生会会計に就任しました、田中彩央里です。前年度に引き続き、責任をもって自分にできることを一所懸命努めさせていただきます。皆様から信頼される会計を目指します。

学生会会計：佐藤 綾香(情報工学科2年)

この度会計に就任しました、佐藤綾香です。初めての役員で慣れないところもあると思いますが、責任を持って丁寧に努めさせていただきます。よろしくお願いします。

学生会書記：横山 将太郎(情報工学科2年)

書記に就任した横山将太郎です。書記2年目として学生会での仕事を全う出来るよう今年度も精一杯頑張ります。よろしくお願ひいたします。

学生会書記：清水 咲哉(物質化学工学科1年)

こんにちは。学生会書記を務めさせていただきます清水咲哉です。至らぬ点もあるかと存じますが、先輩方から多くを学び、精進してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



クラブ・同好会紹介

vol.32



アーチェリー部

電子制御工学科4年 下浦 大輝

私たちアーチェリー部は週5回程度、学内のアーチェリー場で主に活動しています。筋トレや基礎射形の確認、実際の的を使った行射練習を主に行い、郡山協会開催の月例会に毎月参加しています。ほとんどの部員は初心者からのスタートで、部の弓を使って活動しています。外部コーチの指導を受けながら、先輩が後輩に丁寧に指導するなど、互いに助け合いながら楽しく上達しています。今年は、第42回通信制全国アーチェリー競技会で、女子は50m30mの部団体戦優勝、個人戦優勝と2位、男子は70mWの部・50m30mの部共に団体戦2位となりました。是非、アーチェリー部に入部して、遠く離れた的の中心を射抜く爽快な瞬間と一緒に体験してみませんか？

体育部

アーチェリー	ソフトテニス
合気道	卓球
弓道	バスケットボール
剣道	バドミントン
硬式テニス	ハンドボール
硬式野球	バレーボール
サッカー	ラグビーフットボール
柔道	陸上競技
少林寺拳法	
水泳	

文化部

からくり	からくり
機械研究会	機械研究会
静音楽	静音楽
茶道	茶道
システム開発研究会	システム開発研究会
将棋	将棋
情報処理研究会	情報処理研究会
吹奏楽	吹奏楽
美術	美術
放送	放送

同好会

化学同好会	化学同好会
合唱同好会	合唱同好会
クイズ研究会	クイズ研究会
手芸同好会	手芸同好会
生協学生同好会	生協学生同好会
数学同好会	数学同好会
電気技術研究会	電気技術研究会



生協学生同好会

物質化学工学科1年 奥村 侑以

生協学生同好会では組合員の皆さんに還元するために様々な企画を運営しています。

今年の活動では、奈良高専生協設立30周年企画としてアイス100円引き企画やかき氷企画などを行い、多くの方々にご好評いただきました。また、大山フェアと称してキャンペーンや試飲会を行っています。

様々な企画を運営できるので、主体的に取り組みたい方にはぴったりです。またほとんどの会員が兼部しており、自由度の高い同好会です。自分たちで何か企画をしたい人やポスターなどの創作活動が好きな人の入部を心からお待ちしております！





学生の活躍 令和7年度 全国大会など

陸上部

全国大会に出場して

機械工学科1年 橋本 明依

8月29日から30日の二日間、大分スポーツ公園クラスドーム大分で行われた第60回全国高等専門学校体育大会陸上競技に出場しました。

初めての全国大会でしたが緊張することなく楽しんで競技に臨むことが出来ました。自己ベストを更新しての4位という結果になり嬉しくもありますが、同時に接戦で最後に勝ちきれず3位を逃してしまったことを悔しく思います。この時の嬉しさと悔しい気持ちを忘れずに来年、再来年への全国大会出場に向けて頑張りたいと思います。

初めてで分からぬことが多い中、支えてくださった先輩方、先生ありがとうございました。自分のベストを更新し続けられるように頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。



将棋部

第32回全国高等専門学校将棋大会について

電子制御工学科3年 岡理月

私たち将棋部は、8月28~30の3日間、熊本高専(熊本キャンパス)にて開催された第32回全国高等専門学校将棋大会に参加しました。

昨年は3位入賞であったため、優勝をとる気持ちで気合十分で大会に挑みました。結果は、団体戦、個人戦ともに入賞できず、振るわない結果となってしまいました。悔しい結果となりましたが、収穫もあったと思います。昨年よりも多い勝ち星を挙げた部員や他高専との交流で学べたことも多かったように思います。この経験を糧に、来年の優勝を目指し精進したいと思います。



私たちが大会に出られるのも、支えてくださる保護者の皆様や、学校関係者の方々のおかげであり、とても感謝しています。これからも一生懸命励んでいこうと思います。

弓道部

全国高専大会出場について

物質化学工学科4年 山本 あかり

弓道部は、8月に長野県で開催された全国高等専門学校弓道大会に出場し、男子個人3位入賞、女子団体準優勝という成績を収めました。

昨年の近畿大会で団体優勝を逃し全国出場を果たせなかつた悔しさを胸に、今年こそはという思いで1年間練習に励んできました。厳しい暑さの中でも部員全員が一丸となって努力を重ねた結果、大きな成果を得ることができました。

ご指導くださった先生方、応援してくださった先輩方、仲間たちに心より感謝しています。



水泳部

全国大会出場について

機械工学科5年 安田 恵生

私たち水泳部は、8月23日、24日に鴨池公園水泳プールで開催された全国高専大会に男子8名、女子5名出場しました。



今大会に至るまで、オフシーズンの間の筋力トレーニングからシーズン中の水中練習まで、日々怠ることなく練習してきました。また学年を越えての協力、切磋琢磨し合うことで各々の実力を高めてきました。結果としては女子個人7位入賞、女子リレーで6位入賞という結果を残すことができました。

来年は、今年よりもさらに多くの人数が全国大会に出場し、さらに良い結果を残せるように日々の練習に励んでいきたいと思います。また、多くの方の支えによって大会に出場することができました。その感謝の気持ちを忘れずにこれからも頑張っていきたいと思います。

令和7年度(前期)学生表彰<特別賞>

機械工学科2年 大塚 万伊

電子制御工学科2年 塩津 仁菜

電子制御工学科4年 松尾 未蘭

物質化学工学科4年 山本 あかり

第12回全国高等専門学校弓道大会女子団体の部 準優勝

物質化学工学科3年 渡邊 周平

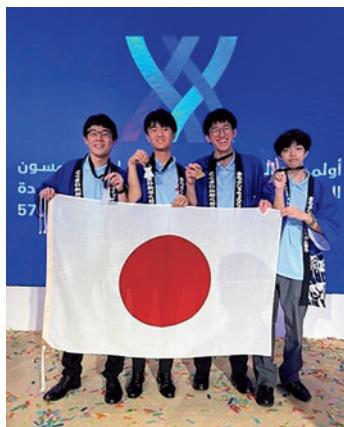
第57回国際化学生物オリンピック 金メダル

※特別賞は全国大会またはこれに準ずる大会において、優勝または準優勝した個人または団体に授与されます。



国際化学オリンピック 金メダル獲得について

物質化学工学科3年 渡邊周平



7月5日から7月14日までの10日間、第57回国際化学オリンピックアラブ首長国連邦大会に日本代表の1人として出場し、上位10%以内の成績を収め金メダルを獲得しました。

本大会は4日目に実験試験、6日目に筆記試験が設けられ、それぞれの得点が総合的に評価されます。

今年の実験試験は5時間で①無機錯体の合成と分析②アミノ酸の定性、定量分析③TLC(薄層クロマトグラフィー)による未知化合物の分析、の3つの内容について実験し、簡易的なレポートにまとめるというものでした。特に③では大量の試料に対してTLCで分析する必要がありとても煩雑でしたが、実験順序を工夫しそれぞれの実験操作をスムーズに完了することができました。

理論試験では5時間で9つの大問が出題されました。有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、生化学など幅広い分野の難易度の高い問題ばかりでしたが、事前に実験の対策の成果を精一杯出すことができました。特に、例年出題数の多い有機化学分野に関しては事前に代表生徒同士で話し合いながら集中的に勉強し、本番でも得点源にすることことができました。

試験のある2日間以外はエクスカーションと呼ばれる、現地の文化を体験するプログラムが組まれていました。3日目には世界一高い建造物であるブルジュ・ハリファとその付近にあるドバイモール、5日目にはルーブルアブダビという美術館とグランドモスク、7日目には屋内テーマパーク、8日目には博物館に行くなど、アラブの雰囲気を様々な場面で感じることができました。

さらに、試験やエクスカーション、またその間のホテルでの生活を通じて同世代の様々な国の人々と日常生活や化学のことなどに



ついて英語で国際交流する機会が多くありました。また、大会後も継続してSNSなどでやり取りしたり、日本に旅行に来た時に案内したりする友人ができたのも思い出です。

今回国際化学オリンピックに参加するにあたり、選考の段階から本番にかけてたくさんの先生方、友人らに支えていただきました。特に日本代表に決定してからは週に1度、3時間ほど実験練習をさせていただき、それが実験試験での好成績につながりました。また、1年生の頃から徹底的にご指導いただいた化学の基礎知識や取り組み方なども今回の受賞につながったと考えています。これまでの熱心なご指導に感謝いたします。

最後に、これを機に奈良高専から化学オリンピックに挑戦する学生が増えるととてもうれしいです。



ハマルガードが国会でも紹介されました

機械工学科 准教授 須田 敦

正課内の取り組みで製作し、第2回高専防災減災コンテストで審査員特別賞を受賞した「車いすのタイヤが線路の溝にはまる装置：ハマルガード」が、参議院の国土交通委員会（2025年5月13日）にて「是非参考にしていただきたい取組」として取り上げられました。

正課内の取り組みですが、イノベーションを起こすものづくり人財教育へのシフト（デジもの事業）やアントレプレナーシップ教育の一部でもあります。まさにソーシャルドクター／ソーシャルアントレプレナーです。これからも教育成果を社会実装していきます。



手作りモノレールで伝える、機械工学の魅力 日本機械学会関西学生会貢献賞

専攻科 システム創成工学専攻
機械制御システムコース2年 前田 和輝

日本機械学会関西学生会の活動として、子供を対象とした体験型イベント「メカラифの世界展」や卒業研究発表講演会などの企画・準備に携わりました。

特に、メカラифの世界展では「LaQ金魚で遊んでギアを学ぼう」を企画しました。これは、奈良県発祥のLaQブロックで金魚を作り、自作モノレールで走らせることで、子供たちに歯車の仕組みを体験してもらうことを目指したものです。工夫したのは、懸垂式モノレールを参考に、金魚がまるで水槽を泳いでいるかのように見せた点です。この活動を通して、自らの機械工学への探求心を一層深めることができました。





グローバル教育センターから

「海外インターンシップ」に参加して



専攻科 システム創成工学専攻 機械制御システムコース1年 宮野 博雅

私はシンガポールのリパブリック・ポリテクニック(RP)に1ヶ月間留学していました。

この留学で一番良かったと感じたのは、RPの学生や、同じく日本から来ていた他の高専の留学生たちと深く交流できたことです。放課後や休日には、一緒にナイトサファリやマリーナベイなどの観光地を巡ったり、RPの友人がすすめてくれたシンガポール料理を食べに行ったりと、現地での生活をとても満喫できました。

また、ギターという共通の趣味を通じてRPの先生と知り合い、その先生が出演されるライブに招待していただきました。そこでは様々なバンドの方々からお話を聞くことができ、さらに交流の輪を広げられました。日本人の方も多く出演されており、日本の音楽がシンガポールでも流行っていることに驚きました。

次に、シンガポールで特に印象的だったのは、建設途中の施設が非常に多かったことです。「BEX ASIA」という建造環境の展示会に参加した際も、重機のリモート操縦や地下鉄の掘削機に関するブースなどがあり、シンガポールでは建設関連の技術開発に対する需要が非常に高いだと実感しました。

最後に、海外留学に少しでも興味がある方へお伝えしたいことがあります。私がこの留学で特に大事だと感じたのは、積極的にコミュニケーションを取ろうとする「姿勢」です。シンガポールでは、訛りの強い英語「シングリッシュ」を話す方が多いため、私はジェスチャーや表情も使ってなんとか会話をしていました。英語力ももちろん大切ですが、それ以上に「相手に何かを伝えよう」とする意志を示すことが重要だと実感しました。その意志さえあれば、ジェスチャーや片言の英語でもコミュニケーションは成り立つと思います。海外留学に興味がある方は、ぜひ挑戦してみてください。

「異文化交流」に参加して

電気工学科4年 前田 沙耶花

シンガポール学生の受け入れをやってみて、私にとってとても価値のある時間であったと感じています。私は2年前のシンガポール派遣プログラムに参加したため海外の学生と関わるのは2回目でしたが、文化の違いや信仰する宗教の違いなどまだまだ知らないことばかりで、私の中で新鮮な経験となりました。

私はあまり英会話が得意ではないので言語の違う人と関わることは難しいと感じましたが、同じ年くらいの学生が日本に来るので積極的にコミュニケーションを取ろうとし、話しかけたり、わからなければわからないなりに聞いてみたりするなどしていくことで、少しずつですがコミュニケーションが取れ、いろいろな話ができました。例えば、シンガポールで流行している日本のキャラクターやアニメ、ゲームなどの話や自分の学校で学んでいる分野の話など、同年代だからこそ話題も多く、たくさん話ができました。河原町での自由行動の時には、自分のおすすめのお店と一緒に買って買い物をしたりたくさん写真を撮ったりしてとても楽しかったです。

また、お互いのインスタグラムなどのSNSを交換して今でもたまに連絡を取っており、今回のプログラムでもう会うことのない友達ではなく、連絡の取りあえる友達ができるとてもうれしいです。



留学生自己紹介

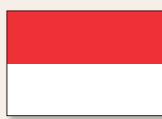


電子制御工学科3年
オーツク

ウブン パビン
UPUN PAVIN

こんにちは。オーツクです! タイのバンコクから来ました。奈良高専で電子制御工学を勉強しています。私は小さいころから、機械や電気の工作が好きで、この方向に進もうと思っていた。私はアルドウイーノ、ラズベリーパイのようなマイコンボードや電子制御の最新の知識や技術に興味が深く、私の夢はこれらを使って新しい世界に役に立つものを発明したいと思っています。なので、電子制御工学を選びました。日本は、これらを学ぶのに最適な場所だと思っています。日本の高専に入学できて、本当にうれしかったです!

これから、日本の文化を体験したり、友達と一緒に遊んだり、新しいプロジェクト製作を作り出したり、いろいろしていきたいと思います。よろしくお願いします。



情報工学科3年
カリラ
QARIRA RAHMAMUNIFA NINGRUM SALEH

カリラ ラムマニファ ニングルム サレ

こんにちは。インドネシアから来ました、カリラと申します。小さい頃に日本に住んでいて、日本の文化や技術にすごく感心していて、いつか留学したいなとずっと思っていました。今は文部科学省のプログラムのおかげで日本に留学することができました。

去年の4月に来日して、一年間、東京日本語教育センターで日本語を学びました。今年から奈良高専の情報工学科に入学しました。プログラミングやコンピュータ、AIについて学びたいので情報工学科を選びました。奈良高専では、先生や友達に親切にしてもらえていつも支えられています。高専にいる間に色々な事を体験して、色々な事を学んで、日本の事をいっぱい知りたいです。

将来は特にITに関わる仕事をして、奈良高専で得た知識を活かしてインドネシアや日本のために役に立ちたいと思います。これからも色々な人と仲良くして奈良高専で頑張りたいです。3年間、よろしくお願いします。



技術とアートの融合体験～日経STEAMシンポジウム2025 デジタルアートに参加して～

物質化学工学科3年 西村ひかり



8月8日に開催された「日経STEAMシンポジウム2025」のデジタルアートのプログラムに参加しました。

このプログラムにおいて、SDGsの目標から自分たちが達成したいものを選び、そのシンボルとなるキャラクターを創作しました。そして、AR機能を通して現実世界に登場させるという、技術とアートが融合した革新的な取り組みを行いました。

創作活動では、技術者を志す高専生ならではの表現を最大限に引き出せるような最適なアイデアを模索しました。みんなの思いを1つの作品に落とし込むための話し合いで、意見をすり合わせる大変さと、自分には思いつかない斬新なアイデアに驚かされた面白さが共存していて、創作活動特有の楽しさを感じました。

このプログラムで得られた貴重な経験を忘れずに、自分なりの創作・表現活動に活かしていきたいです。

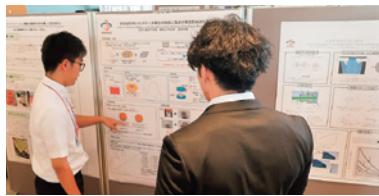
KOSEN水素フォーラムに参加して

機械工学科5年 金澤尚輝

9月6日と7日に奈良県コンベンションセンターにて開催された【KOSEN水素フォーラム in NARA】に参加しました。

初日は、水素に関する研究内容等のポスターセッションがあり、私たち奈良高専の各研究室をはじめ、他の高専や企業の方々による活発な意見交換が実現しました。二日目の一般向けのイベントでは、外部から招いた講師の方によるサイエンスショーの補助をしました。ショーは大変盛り上がり、子どもから大人まで科学の不思議に目を輝かせしていました。その後は実際にものづくりを体験できるようなブース出展に参加しました。参加者からは「科学が身近に感じられた」との声を多数いただきました。

本イベントを通じて水素の社会的意義を再認識し、未来の科学技術が拓く可能性について新たな展望を得ることができました。



後援会から防災備蓄倉庫及び備蓄品一式をご寄贈いただきました

このたび、本校後援会から防災用の備蓄倉庫及び備蓄品一式をご寄贈いただきました。災害時の備えがますます重要となる中で、このようなご支援をいただけたことは、学生の安心・安全を守るうえで大変心強く、学校としても非常にありがたく感じています。

また、災害時の対応能力向上を目的として、今年度は防災訓練後に担任・クラス委員が防災倉庫に備蓄している物品(水・食料等)の現地確認を行いました。

今後は、年に1回備蓄品を配布し、新しいものに更新していく(ローリングストック)予定です。



学生支援センターから

カウンセラーだより

年末こそ、
心と身体のひと休みを

カウンセラー
(臨床心理士・公認心理師)
田辺 雄一

高専のみなさん、こんにちは。スクールカウンセラーの田辺雄一です。今年も残りわずかになりましたね。授業や課題、部活動などで、いつも以上に慌ただしく過ごしている人も多いのではないでしょうか。そんなときほど、心と身体に小さな「休憩時間」をつくることが大切です。たとえば、深呼吸をしたり、温かい飲み物をゆっくり味わったり、夜は

スマホを少し早めに手放して眠る準備をしたり……。こうしたほんの数分の工夫が、疲れや緊張をほぐすことがあります。また、友達や家族と他愛もない話をするとも、気分をリセットする良い方法です。誰かと笑い合う時間は、心のエネルギーを少しずつ満たしてくれます。

忙しいと、自分のことは後回しになります。だからこそ、ちょっとした小休止を意識的にとって、元気に年末を迎えましょう。相談室も、みなさんの「ひと休みの場」として気軽に利用してくださいね。



学生支援センター(学生相談)Webページ
<https://www.nara-k.ac.jp/life/shien/soudan/>

アンケートのお礼とお願ひ

学生支援センターでは、学生の皆さんの学校生活をより良いものにするために、年4回のアンケートを実施しています。これらのアンケートは、いじめの実態把握や、各学生の学校生活での心身の負担度を知るためのものですから、100%に近い回答率が望まれます。

昨年度低かった回答率を上げるためにどうすればよいか悩んでいたところ、ある学生から「アンケートの趣旨を知り、学生にとって有益だとわかれれば回答しますよ」と一言。そこで、5月のアンケートでは、いじめとは何か?アンケートの趣旨は?がわかる動画を作成し、それを視聴してから回答してもらいました。おかげさまで、5、7月のアンケートの回答率は大幅に改善されました。また、学校生活の悩みにに関する相談希望の回答も多く、実際に相談された学生の何人かをカウンセラーにつなげることができました。アンケートにご協力いただきありがとうございます。アンケート実施により学校生活がより良いものなればと思います。

なお、悩み事の相談は、アンケートの中で希望する以外にも、保健室、学生支援ルーム、担任、相談員といろんなパスがありますので、気軽に声をかけてもらえればと思います。

学生支援センター長 橋爪進

支援ルーム
総合情報棟1階
火～金曜日
8:30～17:00



AUTUMN 2025 CAMPUS_09



学生図書委員会の活動報告

図書委員会委員長 機械工学科4年 加藤 良太

はじめまして、2025年度図書委員長の加藤良太です。昨年度に引き続き、図書委員長として活動させていただいております。

私自身、進級に伴い専門科目の難易度が格段に上がり、実験や課題の調べ事で図書館を使用することが増えてきました。もともと私は、各地の図書館・本屋に訪れるのが好きなのですが、やはり専門科目の本については奈良高専の図書館がどの図書館・本屋よりも充実していると実感しています。また、ウェブサイトでは出てこないような知識が必要になることが増え、まだまだ今の時代でも本は欠かせない存在だと改めて実感しています。

今年度の図書委員会は例年以上に活気があふれており、高専祭の模擬店の出店にも初めてチャレンジします。委員がデザインした栄の販売を予定しており、盛り上がりがいいなと思いながら委員の皆で準備を進めています。

ところで、奈良高専図書館に雑誌スペースがあるのはご存じでしょうか。1階のブックハンティングの本棚の向かい側に、技術についてのものからスポーツなどの一般的な雑誌まで様々なジャンルの雑誌が設置されています。その雑誌について、今年度から設置されているラインナップの見直しを予定しています。学生のみなさんの意見・希望をお聞きする機会があると思いますので、その際はぜひご協力をお願いします。

また、今年も例年通り、年末に福袋プロジェクトを予定しております。委員が選定した二冊を袋に入れ、本の内容に関するメッセージカードを付けて中身の見えない状態で貸出するというイベントです。ぜひお越しください。

例年行っているブックハンティングや福袋プロジェクトに加え、雑誌のラインナップ更新、高専祭の模擬店の出店など、例年以上に様々な活動に取り組んでいます。どのイベントも委員が力を合わせて準備していますので、図書館に足を運び、楽しんでもらえると嬉しいです。

高専祭模擬店の出店(11月中旬)

学生図書委員が11月8～9日に開催されました高専祭の模擬店に出店し、趣向を凝らし手作りしたしおりを販売しました。



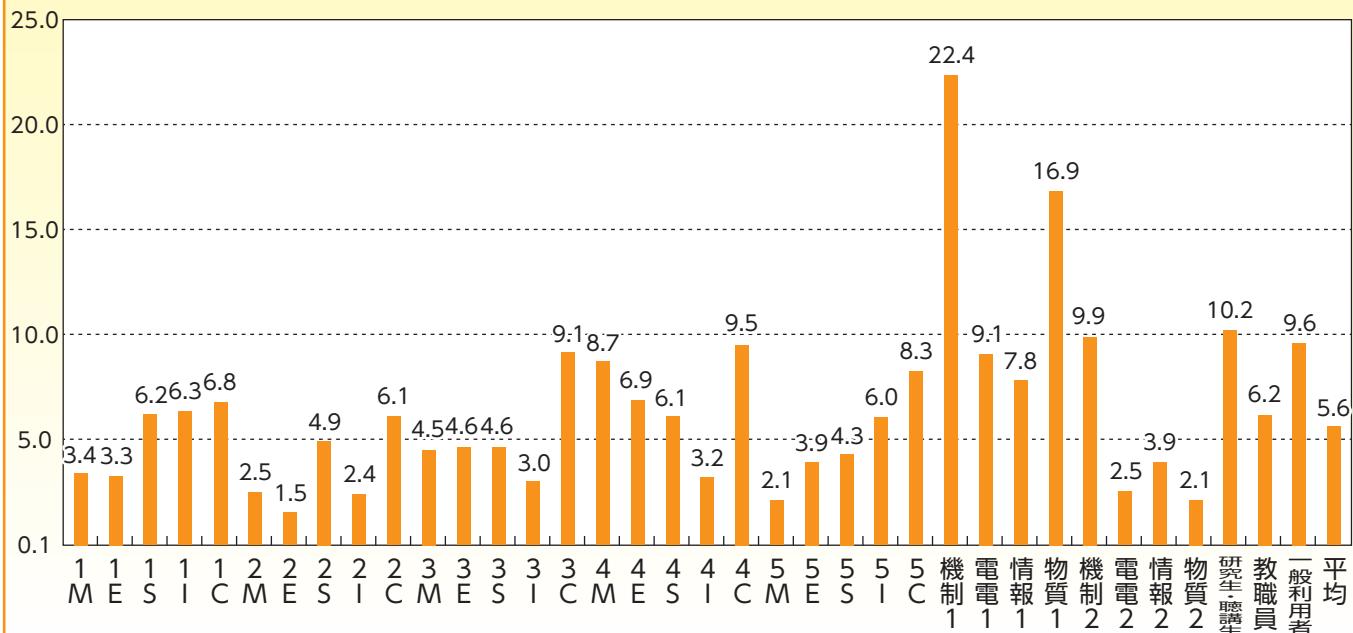
福袋プロジェクト(12月下旬)

学生図書委員が選定した図書を袋に入れ、ヒントとなるメッセージとともに飾り付け中身が見えない状態で貸出をします。



クラス別一人当貸出冊数(令和6年4月～令和7年3月)

合計冊数7,226冊



2025年度 奈良高専アントレプレナーシップ 教育プログラム

“将来の不安”を“今の行動”に変える方法

～奈良高専生のための実践型思考トレーニング～

学生課特命助教 藤本 森峰

本プログラムは、本校学生を対象にした全8回構成の教育企画で、変化の激しいVUCA時代を生き抜くために必要な「考える力」「つくる力」「伝える力」を育むことを目的としています。構成は、自らの起業やスタートアップ勤務、新規事業支援などの経験を有する本校特命助教による5回の講義と、外部講師による3回の講演から成り、理論と実践、内省と刺激のバランスが取れた内容となっています。

講義では、学生自身の興味から社会課題を見つける「課題発見」から始まり、SCAMPER法による「アイデア創出」、ペルソナ設定とニーズ分析による「情報構造化」、SWOT分析とリスクマトリクスによる「実現性の検討」、そして1分ピッチによる「発表と振り返り」までを段階的に学びます。各回は個人ワークを中心に構成されており、発表とフィードバックを通じて、学生の主体性と表現力を自然に引き出す設計です。

講演では、実社会で活躍するゲストによる体験談や実践的な知見を通じて、学生の視野を広げ、将来への具体的なイメージ形成を促します。たとえば「協力を募る方法」「継続することの大切さ」「アントレプレナーシップの本質」など、進路選択や挑戦に直結するテーマが扱われます。

本プログラムは、モデルコアカリキュラムや日本版Entre-Comp(アントレプレナーシップ・コンピテンシー)にも対応しており、様々なコンテストや研究での申請書作成などへの活用も可能です。単に起業をゴールとするのではなく、知識を活かして自分らしく生きるための“思考と行動のフレームワーク”として、進学・就職など、社会における多様な挑戦、進路に役立つ内容を心がけています。

「将来の不安」を「今の行動」に変えるために。自分の価値観や興味を理解し、発信する力を育てるこの講座は、すべての本校学生にとって、未来への選択肢を広げる第一歩となるはずです。

2025年度 奈良高専アントレプレナーシップ教育プログラム

“将来の不安”を “今の行動”に変える方法

～奈良高専生のための実践型思考トレーニング～

現代は、イノベーションやビジネスモデルの変化が著しい社会です。奈良高専では、これから社会に求められる「アントレプレナーシップ」を学ぶ教育プログラムを開講します。本講座では、モノづくり・コトづくりに必要な以下の力を身に着け、未来を切り開く力の習得を目指します。



アイデアをカタチに！奈良高専の起業家工房を活用しましょう！

学生課技術補佐員 宮本 博司

皆さん、奈良高専の「起業家工房」を知っていますか？「起業家工房」というと、「会社を作る人が使うんじゃないの？」といわれることがよくあります。しかし、ほんとうの意味は違います。ここでは、広い意味での「起業家精神」を考えており、不確実な社会で主体的に行動するための「アントレプレナーシップ」との強いつながりを持っています。イベントを学内で起こすことでも「学内起業家」と考えられるわけです。「起業家工房=ビジネス」ではないという認識が重要です。アイデアをカタチにする、ということがポイントです。

そのために、奈良高専起業家工房は皆さんのアイデアを実現するため、教育機関随一のデラックスな設備を取り揃えています。具体的に、起業家工房は「Hub×Fab」という名の通り、アイデアを練る「Hub」機能と、それを形にする「Fab(Fabrication)」機能が融合しています。特に「Fab」機能では、皆さんの「作りたい」を実現するための高度な設備が充実しています。例えば、三次元の立体物を高精度で作成できる3Dプリンターは複数台備えられており、複雑な試作品も手軽に作ることができます。また、オリジナルの部品などを素材から正確に削り出す5軸加工機もあります。これは、設計データに基づき金属や樹脂などを加工できるプロ仕様の機材です。さらに、木材・アクリルの切断・彫刻に欠かせないレーザー加工機や、電子工作に便利なオシロスコープなどの測定器、各種はんだ付けステーションも完備しています。また、機械学習などのAIに活用できるハイスペックの



コンピュータもあります。これらの機材は、部活動や個人的なプロジェクト、学内外のコンテストなどにフル活用できます。

しかし、最も重要なのは、これらの設備が単なる「道具」としてではなく、皆さんの創造性(クリエイティブな感性)を磨き、アントレプレナーシップを育むための「拠点」であることです。

起業家工房は、まず「作ってみる」「試してみる」「失敗を恐れずに挑戦する」というプロセスを全力で応援する場です。自分のアイデアを具現化する喜びを知り、それを仲間と共有し、さらに発展させる。このサイクルを経験することが、広い意味での「起業家精神」を身につけることにつながります。

思い立ったが吉日！もし少しでも興味が湧いたら、ぜひ一度起業家工房を訪れてみてください。あなたのアイデアをカタチにする最初の一歩を踏み出しましょう。



ロボコン2025近畿地区大会



高専ロボコン2年連続地区大会優勝について

Aチーム 情報工学科3年 前越 大和

私は今年度、ロボコンAチームのリーダーとして近畿地区大会に臨みました。今年の高専ロボコンの競技課題は「Great High Gate」。フィールド上に配置されたさまざまな大きさの段ボール箱を回収し、積み木のように積み上げて“ゲート”を建築します。最後に、自作のマシンと人が乗った台車が一緒にゲートをくぐることで点数が得られ、ゲートが高いほど高得点となる競技です。

奈良高専Aチームのマシン「金剛」は、限られた制約の中で設計・製作・制御を磨き上げ、地区大会では一度も失敗することなく全ての試合で2.8mのゲートを建築。高度な自動制御と確実な動作を両立させ、2年連続の近畿地区大会優勝を果たしました。

全国大会では、各地区的強豪校が集まり、マシンの完成度や戦略性はさらに高いレベルが求められます。そのため、より高く・安定したゲートを建築するための機構強化と自動制御の精度向上に取り組んでいます。私たちは、奈良高専初となる「完全制覇」による全国優勝を目指して、さらなる挑戦を続けます。

今回の成果は、日々支えてくださる方々のご支援の賜物です。これからも奈良高専ロボコンプロジェクトは、感謝の気持ちを忘れず、優勝と感動を届けられるよう挑戦を続けます。今後とも温かいご声援をよろしくお願いします!!



学生課窓口のご案内

～保護者の皆様へ～

教務・入試係(教務) 0743-55-6033

授業、定期試験、教科書、学籍異動(休学・復学・退学・卒業)、欠席・忌引・公欠・出席停止・大学編入学、専攻科、インターンシップ、学生証、住所・保証人等変更、在学・成績証明書 など

教務・入試係(入試) 0743-55-6032

入学試験、体験入学、入試説明会、研究生・聴講生 など

学生係 0743-55-6034

奨学金、高等学校等就学支援金、授業料等の免除・徴収猶予、課外活動、コンテスト・自転車・単車通学、免許、学割、通学証明書、就職 など

寮務係 0743-55-6035

寮生の生活、寮の諸経費、在寮証明書 など

保健室 0743-55-6172

保健衛生、カウンセリング相談予約、学生生活での怪我の保険 など

奈良高専Bチーム「塔大事」初挑戦の近畿大会と春ロボコンへの誓い

Bチーム 電子制御工学科1年 大坪 春海

私は近畿地区大会で、ロボコンBチームのリーダーとして参加しました。2025年度高専ロボコンの課題「Great High Gate」は、フィールド上の大小の段ボール箱を集め、積み木のようにつなげて高さのある“ゲート”を構築する競技です。ロボットが箱を運び、正確に積み上げ、最後に人が乗る台車とともにゲートをくぐると得点となります。ゲートが高いほど高得点で、共有ボックスの戦略や安定性が勝負の鍵でした。9月の近畿大会は白熱し、チームの連携とアイデアで全国大会を目指しました。

奈良高専Bチーム「塔大事」は、1・2年生を中心としたメンバーで、安定したゲート完成と通過を目標に、初めての高専ロボコンで多くの経験を積み、1.6mのゲート構築を実現しました。しかし、1試合目は試合時間残り3秒で逆転負けを喫し、2試合目は機構の不具合によりゲートを建築できず、悔しい結果に終わりました。

関西春ロボコン2026では、今回の経験を活かし、1年生のみのチームで挑みます。ロボットの性能向上と戦略を磨き、最高のパフォーマンスを発揮します。次戦では完全1年生での勝利を目指します。応援してくださる皆様に心から感謝し、最高の結果を届けるため全力で挑戦します!!



キャンパスメンバーズ制度 是非ご活用ください

本校では、奈良国立博物館との連携による「キャンパスメンバーズ制度」を導入しています。

本校学生・教職員が学生証・職員証を提示することで、以下の特典を受けることができますので、是非この制度をご活用ください。

- 平常展・特別陳列の無料観覧
- 特別展の観覧料金割引 など

特別陳列「春日若宮おん祭の信仰と美術」

会期: 令和7年(2025)12月13日(土)～令和8年(2026)1月18日(日)

※本イベントについては学生及び教職員は割引料金で観覧できます。

※今年度末(2026年3月)をもちまして、キャンパスメンバーズから退会いたします。今後とも、より良い教育環境の充実に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

「奈良高専のおすすめポイントは? あなたにとっての『〇〇〇、だから奈良高専。』を教えてください!」—この間に、「やりたいことができる(だから奈良高専)」、と答えてくれた学生がいました。それに違わず、本号を通して、皆さん(もちろん学業にも励みながら!)「やりたいこと」に向かって切磋琢磨し、大きな成果をあげていることに大変感動しました。これからも、ますます努力を重ね、自身の夢に向かって突き進んでください。話は変わりますが、当「CAMPUS 2025 AUTUMN」より、冊子版を廃止してweb版のみの発行となります。今後とも何卒よろしくお願い致します。

奈良高専広報センター

CAMPUSについて

本校では、広報誌「CAMPUS」を11月と3月の年2回発行し、本校ホームページ(トップページ>学生生活>CAMPUS(広報誌))に掲載しています。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。